



令和 2 年 9 月 10 日

## 第 29 回 稚内開発建設部総合評価審査委員会の 審議概要について

令和 2 年 7 月 30 日に開催した、第 29 回 稚内開発建設部総合評価審査委員会の議事概要を別紙のとおりお知らせいたします。

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 稚内開発建設部

技術管理課 課長 たまだ たかし 玉田 隆志 電話 0162-33-1031

技術管理課 課長補佐 ますだ ひろあき 増田 浩明 電話 0162-33-1086

稚内開発建設部ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/wk/>

稚内開発建設部公式 Twitter アカウント [https://twitter.com/mlit\\_hkd\\_wk](https://twitter.com/mlit_hkd_wk)



## 第29回 稚内開発建設部総合評価審査委員会 審議概要

開催日及び場所	令和2年7月30日(木) オンラインTV会議(稚内地方合同庁舎他)	
委員長	○井上 京 (北海道大学大学院教授)	
委員	宮武 誠 (函館工業高等専門学校准教授)	
委員	高橋 翔 (北海道大学大学院准教授) (○印は委員長)	
議事	<p>1 令和元年度総合評価落札方式の入札工事・業務(上半期・下半期)について</p> <p>2 個別審議</p> <p>抽出工事の審議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般国道40号 幌延町 幌延改良外一連工事</li> <li>・稚内港北護岸防波改良工事</li> <li>・東宗谷地区 楓地域区画整理工事</li> <li>・東宗谷地区 下頓別東地域区画整理工事</li> <li>・抜海漁港施工検討業務</li> </ul> <p style="text-align: right;">} 一括審査</p>	
	<p>委員からの意見・質問、それに対する回答</p> <p>(応札者の提案又は、その評価に係わる内容は技術提案に関する機密保持の観点から記載していません。)</p>	
意見・質問	回 答	
<p>個別審議</p> <p>抽出された工事4件、業務1件について概要説明及び審議を行った。</p> <p>①一般国道40号 幌延町 幌延改良外一連工事</p> <p>(施工能力評価型I型登録基幹技能者評価型)</p> <p>・施工計画(当該工事での留意事項等)の項目は、評価に差がつくように設定を工夫していく必要がある。</p>	<p>・施工計画の項目設定は、過去に設定したテーマと重複させず、かつ入札に参加しやすいテーマを設定した。結果として、評価に差がつかなかったため、引き続き検討していきたい。</p>	

<p>・工事の技術的難易度の設定は誰がどのようにして決めているのか？      技術的難易度が高いと入札方式等に影響があるのか？</p> <p>②稚内港北護岸防波改良工事      (施工能力評価型Ⅰ型)      応札者の提案又は、その評価に係わる内容なので記載しない。</p> <p>・施工計画（当該工事での留意事項等）について、応札者により提案の具体的内容に差異があるが、評価結果は同じとなっているのはなぜか。</p> <p><b>【一括審査】</b>      ③-1 東宗谷地区 楓地域区画整理工事      ③-2 東宗谷地区 下頓別東地域区画整理工事      (施工能力評価型Ⅰ型)      応札者の提案又は、その評価に係わる内容なので記載しない。</p> <p>・施工計画（当該工事での留意事項等）で、求める内容について応札者に意図が伝わっていなかったように</p>	<p>・発注課が工事内容を踏まえて原案を作成し、部内の技術審査会、及び入札契約委員会の審議を経て決定している。      技術的難易度が高い場合は、施工能力評価型Ⅰ型等として、応札者に施工計画（当該工事での留意事項等）の提案を提出させて評点するが、技術的難易度が低い場合は、企業と配置技術者のみを評価する施工能力評価型Ⅱ型として、提案は求めない。</p> <p>・積算で計上済みの部分以外を評価対象としている。結果として評価対象となる提案内容が同様であることから、同じ評価となった。</p> <p>・工事内容に即した項目を設定したつもりであったが、当方の意図がより伝わるよう工夫をしていきたい。</p>
---	---

<p>思われる。</p> <p>④抜海漁港施工検討業務 (簡易公募型プロポーザル)</p> <p>・技術提案を求めるテーマについて、これまでの検討結果を取りまとめるだけで記載できてしまうように思われるが、何を評価対象としているのか。</p> <p>【抽出された工事・業務については、適切な評価として認める】</p>	<p>・航路機能を確保するために、新たにポケット部の浚渫規模を検討することとしており、それについての留意点などを評価している。</p> <p>以上</p>
---	---